後世に残したい
ヒイゴ池湿地 環境調査報告書完成

完成した『ヒイゴ池湿地環境調査報告書』。A４判、118ページで500部作成。市環境課、市図書館などで閲覧できます
問い合わせ　環境課環境係（☎92−8339）

５月ごろのヒイゴ池湿地。整備された歩道を歩きながら、さまざまな植物や昆虫の観測が楽しめる

ヒイゴ池湿地を守るため

ヒイゴ池湿地（福井）における植物や昆虫の植生・生息状況などの調査結果をまとめた環境調査報告書が完成しました。

ヒイゴ池湿地の保全活動が始まって以来、平成25年で20年目。この節目の年を迎えるにあたり、今後のヒイゴ池湿地を良好な状態で保全していくことに役立てようと、あらためて調査を行い20年間の変化を調べることになりました。調査は北の吉備路保全協会（宮本邦男会長）が依頼した専門家が、平成24年６月から平成25年９月までの期間で実施。昨年12月、報告書がまとまりました。

ヒイゴ池湿地は、面積約0.9haの湿地で、貴重な植物だけでなく、多くの昆虫の生息地でもあります。岡山自動車道の建設で消滅の危機にありましたが、当時、自然保護団体の高梁川流域の水と緑をまもる会（故 重井博会長）をはじめとし、多くの人たちの尽力により保存されることとなりました。現在は、総社市の管理のもと、北の吉備路保全協会、総社北小学校などの協力を得て、保全活動を行っています。

今後もこの報告書を生かし、ヒイゴ池湿地のすばらしい環境を保全して、後世に引き継ぎましょう。

ヒイゴ池湿地自然環境調査団
榎本　敬　団長

ヒイゴ池湿地について多くの人に知ってもらうと同時に、後世に伝えたかった。このような環境を維持するためには、今後も人による管理が必要となる。ヒイゴ池湿地の環境や生き物が元気で長く続くことを祈ります

ヒイゴ池湿地を彩る昆虫と植物

ハッチョウトンボ

ミドリシジミ

トキソウ

サギソウ

オオセイボウ

昆虫編

14目
158科804種

５月上旬から姿を見せるのは、日本最小のトンボ、ハッチョウトンボ。飛び交う姿はとても愛らしく、見る人の心を和ませてくれます。６月からは、羽の表面全体が金属的な光沢をもった鮮やかなミドリシジミを。７月頃には、緑色を帯びた青い輝きを放つオオセイボウを観測することができます。そのほかにも、絶滅が危惧されているナニワトンボ、フタスジサナエなども観ることができ、大人から子どもまで時間を忘れて楽しめる場となっています。

植物編

80科282種

サワギキョウ

暖かくなり始めた５月には、淡いピンク色の花を咲かせるトキソウが湿地を彩り始めます。８月に入れば純白の花、サギソウが。繊細ななかにも凛（りん）とした表情をもったきれいな花です。時を同じくして咲き誇るのはサワギキョウ。紫色をした花はおもわず見とれてしまう美しさです。そのほかにも季節ごとにカキラン・ノハナショウブ・ミミカキグサ・ムラサキミミカキグサ・ユウスゲ・キキョウ・リンドウなどいろいろな花が湿地を彩り、訪れる者の目を楽しませてくれます。

総社北小学校の取り組み
～ヒイゴ池湿地を守りたい～

平成13年から、総社北小学校の児童は、ヒイゴ池湿地の保全運動を学んでいます。平成15年にヒイゴ池湿地が渇水により干上がり、ハッチョウトンボが絶滅の危機に直面しました。そこで、同校の児童らは井戸を掘る資金を得るため、アルミ缶回収などの取り組みを開始。この活動が多くの人たちの共感を呼び、最終的には、水源が確保されました。それ以降、毎年さまざまな活動を行い、ヒイゴ池湿地を保全するために寄付しています。

興味深そうにヒイゴ池湿地を観察する児童

３月５日に行われた引き継ぎ会

この活動の主体は同校の６年生ですが、保全活動を継承していくため、６年生から５年生へ毎年引き継ぎ会を行っています。引き継ぎを受けた５年生は「ヒイゴ池湿地は、いろいろな昆虫・植物がいて貴重な場所。これからは、自分たちが中心となって活動をしたい」と力強く話しました。

ヒイゴ池湿地は今後も、同校の児童らによるサポート活動などによって、貴重な自然として守られていくでしょう。